

目的 明治維新後の食生活啓蒙活動の中で、特に近代の食形成に一役を担った女性たちの活動に焦点をしばり、近代化を背景とした食物教育の状況を考察し、そこから示唆を得ることを目的とした。今回、その啓蒙の役割を果たしたと思われる女性の一人として「塚本はま」を取り上げ、調査、検討した。

方法 当時の女性に対する食生活の啓蒙として、書籍、婦人雑誌等が大きな役割を果たしたが、その中には女性執筆のものも少なくなく、家庭生活の近代化に向かって女性の特性をいかした活躍がみられた。それらに掲載された食物、栄養に関する記事により、「塚本はま」の活動内容、啓蒙思想について分析し、いかに日常の食生活の改善に努めたかを調査した。

結果 婦人雑誌に食物関係記事をしばしば掲載しており、明治26年「女学雑誌」の家政欄に「献立法心得」を執筆、献立の重要性を説いている。内容的には今日にも通用するものであり、このことは注目に値する。また、「女学世界」には「食物の献立」「食物の腐敗」「食物のはなし」「労力に堪ふる献立」等、さまざまな視点から食物について説明しており、他の「女鑑」「女学乃校祈」にも記事を掲載している。著書である「家事叔本」においては、ケルネルの研究結果を引用して日用食品分析表を加える等、当時の最新の知識を積極的に取り入れる姿勢がみられる。

このように著作活動や社会的諸活動を通して、食生活に限らず生活全般にわたって広範囲に近代的な知識を提供し、一般女性の教養の向上に尽くした業績はきわめて大きい。